

令和6年6月教育長定例記者会見

期 日 令和6年6月14日（金）

時 間 15:30～15:45

出席記者 中国新聞、RCC、HOME、NHK、TSS、広島テレビ、読売新聞、朝日新聞、山陽新聞、毎日新聞、共同通信、時事通信

【マクドナルドと連携した特別支援学校技能検定の実施について】

中国新聞： 中国新聞の長久です。マクドナルドとの連携について、今年の2月に連携協定を結んでいると思いますが、いわゆる教育活動での連携事業っていうのは例えばこれ以外には何か既に実施されているのでしょうか。

教育長： はい、教職員の研修等の実施がございまして、それに加えて今回のこの特別支援学校技能検定の審査員としてご協力いただくということになります。

中国新聞： 教職員の研修を除いては、いわゆる子供さん達と絡むような事業としては初めてでしょうか。

教育長： 直接というところでいうとそうですね。連携協定に基づいて実施を検討するものがございまして、また引き続き連携の取り組みができるところから進めていきたいと思っています。

中国新聞： いわゆる職場訪問とか、食育に関する事業と言いますか、そういうのも検討されているという話だったと思いますが、その辺はまだ実施はされてなくて検討している状況ですか。

教育長： そうですね。食育もありますし、ご家族の方も利用される場所でもあると思いますので、教育の普及啓発に関する広報ですとかどういったことができるかについて幅広く連携協定に基づいて、検討議論を行っているというところです。

【生徒による暴力・逮捕事案について】

HOME： 広島ホームテレビの寺田です。今週に入って県内の中学校で暴力による逮捕事案が3件相次いでるんですけども、この事案に対して教育長としての受け止めをお伺いできないでしょうか。

教育長： 特定の事案についてのコメントは控えさせていただければと思いますが、こういう逮捕案件が発生しているということについては、重く受け止めなくてはならないと思っています。そういったことにならないような未然防止、それから再発防止の取り組みが非常に重要であると考えております。特に暴力行為はあってはならないということ、また安心して学校生活を送ることができるといったこと、そういったことを道徳ですとか、特別活動といったいろんな取組を通じて規範意識を醸成するといった取り組みが必要だと思っていますので、そういったところを充実させていくことによりまして、子供達が安全に、安心して学校生活を送ることができるよう引き続き努めてまいりたいと思っています。

HOME： ちょっと重なる部分があるんですけど、令和4年度の暴力行為の件数っていうのが発表されていらっしゃるかと思うんですけども、ずっと上昇傾向にあるかと思うんですが、これに

対する分析ですとか、対策というのはどのようなものをされていらっしゃるのでしょうか？

教育長： この暴力行為の件数ですけれども、全国的な統計でも増加してきております。様々な要因があるかと思いますが、この間コロナがありましたので、なかなかコロナ禍で、対人関係が築きにくいといったところがあって増えてきたというケースもございますし、またこういった暴力行為の件数について、細かく調査をする中で、これまでであれば必ずしも調査上に出てこなかった部分を含めて、しっかり調査をして、計上しているといったこともあるかと思えます。暴力行為で対人関係や、器物損壊など様々ございますけれども、全校種とも生徒間の暴力の件数が多いということもございますし、また小学校中学校では器物損壊といったケースが増加してるという状況でございます。先ほど申し上げたことと重なる部分はございますけれども、引き続き丁寧な指導を行い、暴力行為の発生を未然に防ぐといったこと、また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門家を含む、校内支援チームによる指導といったこともございますので、様々な関係者が連携して継続的、計画的に生徒指導に取り組んでまいりたいと思っております。

【教職員の不祥事について】

中国新聞： 中国新聞です。私は教職員のわいせつ事案についてお聞きします。今年度に入ってですね。逮捕事案を含めて相次いでいまして、先日緊急メッセージも出されたところだと思います。今日も現状は明らかにはされてないですけども、処分が出てくるのかなと思っています。改めてですね、わいせつ事案というのが相次いでいる現状についての受け止めをお願いします。

教育長： 懲戒処分の内容については後ほど担当課から説明をさせていただきます。先般緊急メッセージも出させていただきましたけども、教職員によるわいせつ事案、これはあってはならないことでありますし、この一部の教職員以外の全ての教育関係者が、子供達のすこやかな成長のために、日々努力をして教育活動を行っている、そういったことを踏みにじるような非常に悪質で許されない行為だと思ひ、受け重く受け止めております。従いまして、先般の緊急メッセージにつきましても、後ほど担当課から説明させていただく内容も踏まえて発出させていただきましたし、また各学校での取り組みについても改めて見直していただいて、その根絶を図っていただくといったことの対応を要請したところでございますので、わいせつ行為は決してあってはならないという考えのもとで、取り組みを徹底していきたいと思っております。

中国新聞： 2022年度にわいせつ、セクハラ事案の懲戒処分が最多となって、昨年度も6件ですかね。かなり相次いでいるといたしますか、高止まりしている状況だと思うんですけど、この状況についてはどのように考えておられますか。

教育長： わいせつ行為自体あってはならないので、非常に重く受け止めております。原因、背景は様々あるかと思ひますが、先般のメッセージにも込めましたように、まずは自分自身を客観視していただいて、自分事として捉えて振り返っていただくということ、また、自分自身が教育に携わるといった崇高な使命をですね、改めて認識するということが必要だと思います。さらにはこういった教職に立っている、教育の現場にいるということは自分だけじゃなく、自分自身を支えてくれる家族あってこそ成り立っていることでありますので、そういったことにも思いを馳せていただきながら、また、苦楽を共にする同僚がいて成り立つわ

けでございますので、改めてそういったことについて自分に関係ないと思わずにですね。決してそういったことと思わずに改めて自分以外の多くの方によって教育が成り立っているってことについて思いを馳せていただいて、真摯に子供に向き合っていたいただきたいと思っております。

中国新聞： 関連して、不祥事が相次いでいる要因ってというのはどのように見ていらっしゃいますか。

教育長： 先般からそうですね。盗撮による逮捕案件が続いておりますので、要因等については、個人の性的指向によるものというのがあるのだらうと思えますけれども、一方で、そういったことはあってはならない犯罪でありますので、当然冷静になって考えれば、分かることと思えます。スマートフォンによる盗撮というところで、スマートフォンの便利さ、手軽さから軽率な行動も取りやすいというのがあるのかもしれませんが、だからといって許されるわけではありませぬので、そういったことが何かの拍子に起こりうるということをしっかり認識していただいて、対策をとっていきたいと思っております。

中国新聞： 個々がですね、そういったところに思いを馳せられないような状況になっているということを要因の一つとして考えられておられるということですか？

教育長： 要因自体は様々あると思えます。専門家の御指摘もございますし、私も皆さん方からの報道に接してですね、背景となるようなところについても伺っております。盗撮についてですと、比較的10代、20代の頃からスマートフォンを使う頻度というか、使うことが当たり前ようになってきているというようなところで、時間があればスマートフォンを手に行っている。街中を見かけるとスマートフォン片手に歩いていらっしゃる方もいらっしゃいます。それぐらい何か考えずに、とっさに出して見るような習慣が、自然と今の社会の中で起きているということも背景にはあろうかと思えますけれども、だからといって許されることではありませぬので、そういったこともありうるということ、それぞれの教職員が認識をして襟を正していく必要があると思えます。

中国新聞： 分かりました。〔性的姿態等〕撮影罪をまあその規定として懲戒処分に盛り込む方針を先日は示されたと思うんですけど、この時期についてはですね、今どのように考えておられますか。

教育長： 先般緊急メッセージの中でも懲戒処分の指針を見直すことについて盛り込みましたけれども、現在、法的な面も含めて内容を検討中ではございますが、できるだけ速やかに行いたいと思っております。どのタイミングでということをやっと今申し上げられる段階ではないんですけども、できるだけ速やかに行いたいと思っております。

中国新聞： 分かりました。ちょっと繰り返しになって恐縮ですが、こうした不祥事が相次いでいる状況について、もちろん個々に要因があったり、個々が襟を正さなくてはならないというのはもちろんあると思うんですが、例えば組織の中の問題であったり、罰則規定含めた体制の問題だったり、そういった所について課題意識はどのようにお持ちでしょうか。

教育長： 先般から続いている盗撮による逮捕事案で申し上げますと、逮捕事案が起きた背景として、学校ですとか、組織といったところで、こうしておけば防げたのではないかというようなところについてはなかなかコメントしづらいところがございます。個人のその性的指向によるところが非常に強かったのではないかと推察されますけれども、ただ、個人の行動や考えを思いとどまらせるような、そういった部分ですと、スマートフォンだけの世界の中に閉じているというだけじゃなくて、自分には支えてくれる家族もいれば、ともに学び、ともに子

供達のために力を尽くす同僚もいるわけですので、そういったことで我に返ると言ったら変ですけども、しっかり認識できるような環境づくりといったことも必要ではないかと思っておりますので、そういった点についても改めてメッセージの中で込めさせていただきました。そういったところについても改めて学校の中で先生方に共有していただいて、決してこういった行為が二度と起こらないように、発生しないように努めていただきたいと思いますと思っております。